

# 「市民大学」のまちづくりへの役割・効果に関する研究

—2つのまちの「創年市民大学」の実践からの考察—

福留 強

## はじめに

「市民大学」は、生涯学習の優れた実践のあるまちでは、例外なく開設されているものである。単に公民館事業の名称を変えただけのものもあるが、多くは、高等教育機関と連携したり、より高度な学習活動を反映したものとして、一般的に行われているといってもよい。

聖徳大学生涯学習研究所・学術フロンティア推進事業の中では、「中高年の活性化」という視点から、学習を通じた生きがいづくりや、仕事づくりなどについて研究することになっている。また「市民大学」は学習の場として、又優れたまちの、1つの指標として市民大学開設の有無をあげられる場合があり、本論はこれを中心テーマに研究課題としたものである。

## 問題の所在

これまで「市民大学」は、単に学習することだけで、その成果の活用には、重点的に取り組むなどの、関心がはらわれてこなかった傾向がある。

「市民大学」は、成人教育の内容として、「職業志向」と「教養志向」という分け方がされる場合があった。それに対して、社会、地域に関心をおく内容については、「社会志向の学習」と表現する場合もある<sup>1)</sup>。

市民大学は、一般に、社会志向の学習より、地域の文化教養的なものなどを学ぶ傾向があるため、その内容の「成果を生かす」ことまでは配慮されていなかったのではないだろうか。もちろん、成果を生かすことが市民大学の趣旨の全てではない。しかし、今日、財政事情が悪く、個人の学習要求を満たすだけの事業に、公的な経費をかけることに対して消極的になりつつある実態から見れば、公的に開設される市民大学は、成果を生かすという役割が期待されるのは当然のことであろう。したがって、学習成果の波及を目指し、それが結果的にまちづくりに貢献するという目標を掲げて、市民大学の開設を考えることもあってもよい

のではないかとと思われる。そのためにも、「創年市民大学」の意義とあり方に注目してみたいのである。

## 研究のねらい

本論では、市民大学が、「まちづくり」の視点から開設されることがあるとすれば、どのような形態や手法が考えられるのか、をまず考察する。

さらに本稿では、そうした「市民大学」が、学習成果を積極的に活用することを前提に開設することによって学習した市民のまちづくりへの参画が、より進むものと思われる状況を明らかにしたい。

またそのためには、企画の段階から「まちづくりを意識したプログラム」を立案することも1つの案であろう。くりかえすが、最近では、「まちづくり市民大学」のように、まちづくりを前提に市民大学を開設する自治体・市民大学が、見られるようになってきている。そこで、市民の学習が、まちづくりに貢献するためにはどのような、企画、内容、実践、評価の過程等に工夫することが可能なのかを考察するものである。

以上の点について、鹿児島県名瀬市、志布志町の2つの実践事例と調査結果を元に検討することにしたい。

## 1. 市民大学の現代的意義と特色

### (1) 市民大学とはなにか

市民大学とは、学校教育法でいう「大学」ではない。自治体に数多くみられる「大学」と名づけられた社会教育事業を示すものである。この、市民大学を「住民・一般を対象に高等教育機関の協力を得ながら従来の社会教育講座より高度な内容を提供する提供事業」と定義した例もある<sup>2)</sup>。こうした市民大学は、今、新しい学習意義を見出している。

成人教育は、これまで公民館等を中心として学級講座の事業が主流となっていた。しかし、公民館講座とは別に、

新しい広がりを見せているものが、高等教育機関等と連携する「市民大学」である。この発展と意義について考えてみる。

高度経済成長とともに、急速に都市化が進み、住民の意識や生活に変化をもたらせた。人々は、また交通の発達とあいまって、地域からの拘束を離れて、また住民の学習ニーズを多様化させた。そのために、人々の学習も自治体講座にとらわれず、広域の、また有料の講座等にも参加することが増えてきた。これが「カルチャーセンター」の登場である。それは、1975年以降に大半が開始されているという<sup>3)</sup>。伝統的な地域での学習に飽き足らなくなった住民にとってみれば、一般教養、趣味、健康・スポーツなどの分野で、魅力的な学習の場を提供するカルチャーセンターは、生活の質を楽しむ象徴的なものであったと思われる。

カルチャーセンターで学ぶということは、地域社会の地縁性にとらわれない集団あるいは現代文化への参加を実現するための活動でもあった<sup>4)</sup>。

一方、大学や短期大学等の公開講座も、ほぼ同じ時期に生まれて発展してきた。これらは市場原理にとらわれずにカルチャーセンター以上に、趣味教養の割合が高いという傾向があったといえるものである。

公民館等では満たせなかった学習需要を開拓・発展させたという点では、カルチャーセンターと大学公開講座は共通しているようである。ただ、公民館事業等の自治体事業とは、量的にはわずかなものであり、カルチャーセンターは、いわば大都市中心の開設であるということである。

「市民大学」はこうした状況から、自治体でも市民大学と総称される学習要求の高度化、要求の多様化に対応する高等教育のレベルの講座を提供しようとする成人教育事業として登場している。

市民大学の定義として、最も一般的なものは、次のようなものである。すなわち、「地域住民の学習需要の高度化と専門化に対応するために、今日全国各地で、一般市民を対象とする地域社会ベースに組織されている中等教育ないし、高等教育レベルの学級講座や学習プログラムの供給システム」ということであろう<sup>5)</sup>。

## (2)市民大学の特徴

市民大学の特徴について、広島大学の調査の中で、池田秀男氏の分析によれば、市民大学はおよそ次の3つの特色になるとしている。

- ア. 地方自治体や公共機関が主体となった地域ベースの公共事業であること
- イ. 大学教育の経験を持つ教授陣が高度な学習内容を一

般市民向けに再編成して提供していること

ウ. 継続的・安定的に実施しながらも柔軟かつ短期サイクルで社会の課題や需要に即応していること

これらの特徴は、基本的に今日でも変わらない。ただ、現在では、これに地域おこし、まちづくりの一環として企画される市民大学が多くなったこともあげられるのではないだろうか。市民大学の指導者にしても、大学人だけでなく斯界の一人者たちが参画する場合も増えている。また、「創年」の意味することから、学習成果を幅広く生かすという生涯学習の成果の活用を強く意識するところから、今後、こうした市民大学が急激に増えて来ることが予想される。特に、聖徳大学生涯学習研究所や、NPO法人全国生涯学習まちづくり協会が進めている「創年市民大学」などは、その性格はもちろんプログラムにしても「まちづくり」を標榜するものが当然中心になっている<sup>6)</sup>。

## (3)市民大学の意義・役割

筆者は、市民大学とまちづくりに関わる調査を平成14年度、全国生涯学習市町村協議会(文部科学省協力)の委託により200の市町村協議会加盟の自治体を対象に、調査研究を実施した<sup>7)</sup>。以来、今日までその研究を継続中である。そこで多くの市民大学の担当者に接して、またインタビューによって、市民大学の意義役割について意識・調査等も実施してきた。その結果、およそ「市民大学の一般的な意義」を「生涯学習の視点」「学習内容の専門性」「プログラム参画の教育性」「まちづくりの効果性」の視点から見出すことができると考えている。

### ①市民大学は生涯学習の最適手段

生涯学習は、自己の充実・啓発と生活の向上のために、自らの意思で、自分にあう方法を自ら選んで学ぶことである。市民大学は、学習者自身がコースを選び、あるいはそのプログラムの企画に参加する場合もある。その意味では、市民大学で積極的に学ぶことは、生涯学習として積極的に最もふさわしい学習方法であるといえる。

市民大学は、基本的に集団学習の形態を中心として行われ、地域の課題をテーマを学ぶことが多い。その方法としての「集団学習」は、集団で学び、集団の意志が反映することに特色があることから、学習者相互の人間関係の深まりと共に、成員の態度形成にあたって、きわめて効果的な方法であるといわれている<sup>8)</sup>。したがって、これこそが「創年市民大学」として、最も教育効果がみられ重要な側面であるといえることができる。

また多様な成員による学習集団としては、地域の異業種、異世代の人々が共通に学ぶことになる。このことは相互の

人間関係が深まり、地域コミュニティの形成に意義あることと思われる。

## ②多様な学習内容の専門性と体系的性

一般に、高等教育機関等と連携する「市民大学」事業は、本来、内容(プログラム)の高度性と、専門性が、他の一般的な学級講座と異なる。これが市民大学の所以となっていると思われる。市民大学は、一般に大学等の研究者を動員して実施される場合が多いのであるが、公民館等の事業との積極的な違いを上げるとすれば、学習内容の多様性、体系的性、専門性、高度性などが多様な学習要求にも対応することを主張しているという点であろう。

また、場合によっては、大学の施設・設備を利用することもある。また、体系的なプログラムにより、大学の単位取得や資格取得に結びつくことも考えられる。

## ③プログラム参画の教育的意義と、学習の深化

いかなる学習も、与えられたプログラムで学ぶことより、そのプログラム編成に関わって学ぶほうが、より自分にとって魅力的な講座になるのは当然である。学びたいものを自ら計画することが、自らの学習課題が反映され、その学習が目的化することであり、自ずと成果は上がるもので、まさに本来の学習であるといえる。また学習計画立案過程に参画することは、より積極的に学ぶ姿勢や条件を自ら創るとともに新しい学習体験をしているわけである。そのことは、計画を立案する過程が、既に最も有効な学習過程であることを意味している。また、それが学習成果をさらに深化させる最大の方法であるといえる。

## ④まちづくりにとって効果的手段

まちづくりは、かつては都市計画や、交通基盤の整備や、企業の誘致や、駅前の再開発などもっぱらハードの整備などが中心的なイメージで語られてきた。しかし、現在の「まちづくり」は、市民が自ら、活動し、まちにどのように関わるか、市民が、いかに生きがいを持って生きていくのかなどの目的をもって、活動や環境づくり、風土づくりなど、いわゆる「ソフトづくり」が中心になっている。多くの市民が、地域に関わり、自らの能力を地域に生かし貢献できる機会が、全ての市民にあるようなまちづくりこそ、これからのまちづくりの中心的な課題である<sup>9)</sup>。

それは一方では「市民が主役のまちづくり」と呼ばれ、今日最も重要な課題といわれている。そのためには、市民大学は、まちに対する課題を発見したり、学んだり、必要によっては実践するなど、まちづくりにとって効果的な学習手段であるということが出来る。

## 2. 自治体が設置する「市民大学」の現状

### 「市民大学とまちづくりに関する調査」から

今、全国に展開している市民大学は、どのような活動をしているのか、市民大学の実際について考えてみる。これまで、「市民大学」と一般的に呼ばれているものには多様なものがあるが、現在では、市民大学が、まちづくりや生涯学習の推進の中で、大きな位置を占めつつあるという傾向が見られるようになってきた。こうした市民大学は、今、どのような活動を、その課題はどうなっているかなど、その一般的な概要について見てみたい。

「市民大学は、まちづくりにどのような効果があるのか」、全国生涯学習まちづくり協会では、平成14年度の全国生涯学習市町村協議会の委託による、加盟団体200の自治体について調査を、また非加盟の自治体109団体のアンケート調査を実施した。この中から、個々の項目について調査結果をまとめてみる。

### ①市民大学名、事業名

市民大学名、事業名について(市民大学実施自治体の66%にあたる132講座を対象)に、全国生涯学習まちづくり研究会109市町村(平成14年度実施分)の他、以下の自治体の市民講座<sup>10)</sup>についても検討資料に加えてみる。

宮古未来塾《宮古市》、浦河コミュニティカレッジ(浦河町)、村民大学ゆうYOUカレッジ(宮守村)、米沢鷹山大学(米沢市)、まなびすと大学(久喜市)、かぞ市民大学(加須市)、文教区民大学院(文京区)、杉並区コミュニティカレッジ(杉並区)、藤沢市生涯学習大学(藤沢市)、大野明倫館(大野氏)、芦原町民大学(あわら町)、もほらいな市民大学(伊那市)、仁多町民大学松の剪定講座、(仁田町)、たぶせ雑学大学(田布施町)、めせな総合大学(末吉町)、高等教育機関と連携した取り組み(注:自治体によって合併後、変更されるものもある)

市民大学の名称で見れば、魅力的な事業名をつけることが重要である。「老人大学」を「創年市民大学」とつけたところ参加者の大好評をえたという例もある。

そこで、この名称を132講座とともに見れば、事業の名称で、分類をすれば、たとえば～市民大学、(町民大学、村民大学)34.0%、大学公開講座12.0%、生涯学習大学9.1%、高齢者大学7.6%、まちづくり大学7.6%となっている。

なお名称だけでみると、市民大学・町民大学、～カレッジ、～自由大学、～地域大学、～雑学大学、～アカデミー、

～塾などという多様な名称が使われていることがわかる<sup>11)</sup>。

## ②事業の実施主体(主催者)について

事業の実施主体は、教育委員会(公民館を含む)、市民部市長部局の市民部や、生涯学習センターなどがある。最も多いのが教育委員会生涯学習課(80)、社会教育課(28)だけで全体の80%を占めている。その他にも、「財団法人生涯学習振興財団」(札幌市など)、「総務部企画課」、「人づくり推進課」(千歳市など)、「まちづくり推進室」「企画人材課」(掛川市)、「教育委員会と大学」(岩手大学、島根大学、関西大学など)、「生涯学習学習総合推進本部」などがある。その他「運営委員会」が実施する場合(町民大学運営委員会、生活学級運営委員会)や住民組織「村・教委・農業共同組合」(常葉村)などが報告されている。

## ③講座の形態

講座の形態は、高等教育との連携によるものが多く、(約4割の52団体)おそらく、具体的には指導者に大学教官があたっており、その結果が4割に達しているものと思われる。それも複数の講師が講義等を行うものが多いと思われる。

また、大学の出前講座として行われているものも多い(18団体、13パーセント)参加対象は、高齢者学級等を、名称だけを「市民大学」に変えたものが多い。結果的には全体の約7割は、高齢者の参加になっている。

## ④学習内容・プログラムについて

さて別な調査では、全国生涯学習市町村協議会に未加入の市町村を対象に調査したところ、109団体から意見を聞くことができた<sup>12)</sup>。その中から、学習内容のプログラムに関して、市民大学は、「目的」以下のおよそ、次のような特色を示している。もちろん、学習者の学習目的となると異なってくるのは当然である。

## ⑤市民大学の目的

市民大学の目的は、生涯学習の視点から見れば、「ア」、自己の充実をめざすものであり、「イ」学習成果を生活の中に活かそうとするものである。そのうち最も多いのが「ア」、である。趣味、教養文化型で学習し自己が満足すればよいとするものである。今後は、それだけでなく行政が関与する市民大学では、「ア」、よりも「イ」、のプログラムで、より必然性、公共性のあるものが実施されることが望ましいと考えられている。

## ⑥主催者

主催者は前述のとおり、教育委員会が最も多い。もちろん首長部局でも多くの講座が開設されている。大学と自治体の連携事業も増えている。学長には「首長」を指名している場合もある。この場合、首長の政策として市民大学を

市民形成の中心に位置付けるとともに、特定の管理部門を置くなど本格的な講座も見られる。東松山市の「きらめき市民大学」は専用の校舎があり、2学年大学院コースを持っている<sup>13)</sup>。

## ⑦参加者数

公民館講座より市民大学の方が参加者は平均的に多い。また参加者層は、平均的に高齢者層が多い。

## ⑧市民大学の内容

市民大学の内容には、テーマを広く掲げ、多彩な内容のものが多い。中でも市民教養講座のタイプが圧倒的に多い。しかし、まちづくりの内容に限ってみれば「まちづくり」に関する学習内容は、全体の80%に達している。これらの表の分類については、「郷土学習」の一部と「まちづくり」、「青少年の地域づくり」「ボランティアの育成」「情報誌発行」など、直接的な表現で、まちづくりに関するものを充ててみたものである<sup>14)</sup>。

## ⑨これまでの市民大学のプログラムの改善

これらの市民大学に対して、調査に回答した担当者の意見としては、これまでの市民大学プログラムに対する課題と今後の改善点について、次のような点に意見が集中している。その主なものは

- ア. 市民大学の対象者として、学習対象者としては、年齢層を限定せずに、より多くの市民への開放すること
- イ. 市民大学とプログラムについては、現代的課題に関するプログラムが必要であること
- ウ. 市民大学の運営については、市民の自主的な運営が求められていること
- エ. 学習はさらに発展させて、「大学院」などへの志向が高いこと
- オ. 学習成果を活用して、できればまちづくりへの活用を期待していること

## 3. 市民大学運営上の課題

市民大学の運営にあたって問題になるのは何か。担当者たちにいくつかの悩みを聞いた。その最も大きなものは、「受講者の確保の問題」である。これは単に、広報だけの問題ではないことは当然である。すなわち、学習内容、講師、開催場所、日時、受講の条件など、いくつかの要素が絡み合っているわけである。ここでは、一般に市民大学の開設者の立場になることが多い行政の立場では、どのような課題があるか、市民大学の運営に当たっている担当者の意見を求め、その主要部分をまとめると、およそ次のような課題が浮かび上がってくる<sup>15)</sup>。

## (1) 行政における主な課題

### ① 学習成果の活用

- ・受講者が生涯学習によるまちづくりの推進者として、実際に活躍できるよう、専門的な知識・技術を身につけることができるよう学習方法等に配慮することが必要である。
- ・受講者が、NPO法人や民間団体を結成して自主的に「市民大学」を主宰できるよう、企画方法をはじめ具体的な学習内容や学習方法を創意工夫する必要がある。
- ・受講者が終了後、グループを結成して、主催者となって企画・運営・評価ができるような、具体的な学習機会の提供事業を、充実することが大切である。

### ② 学習意欲の向上

- ・学習終了後、学習に関する自主グループが結成されるよう配慮する必要がある。
- ・受講者が学習成果を確認し、学習意欲を持ちつづけるよう、求めに応じて修了証の交付や学習暦の累積による表彰制度などを定めることも効果的である。
- ・今後の学習機会の拡充のために、生涯学習情報提供・学習相談事業を充実する必要がある。

### ③ 大学や企業等との連携・融合

- ・市民大学の活性化のために、近隣の大学や企業などと連携し、専門分野の講師が容易に確保できるシステムを構築する必要がある。
- ・大学や企業などと一体となり融合して、市民大学の開設を中心とする学習機会の提供事業を実施することが必要である。

## (2) 生涯学習ボランティア団体や受講者による運営における主な課題

### ① 会員・受講者の意識の高揚

- ・会員・受講者の具体的な活動の場や役割を明確にし、拡充することが必要である。
- ・会員・受講者に対して、「市民大学」の開設の趣旨や運営および自主開設に関する研修の機会を、充実させることが必要である。

### ② 実行委員会の組織の自主的、自立的な体制の確立

- ・行政と対等な関係で、協働できる自主的・自立的な体制の確立が必要である。
- ・会費や寄付金、収益による自主財源を確保することが大切である。

### ③ 社会貢献のためのネットワークの構築

- ・生涯学習によるまちづくりの主体者と認められるよう、確かな存在感を持った活動と広報が、活動を充実

させるために必要である。

- ・生涯学習に関係する行政や団体、大学や企業などとの連携を密にするネットワークの構築が必要である。

## 4. 創年市民大学のこころみ

### (1) 創年と創年活動の意義

聖徳大学生涯学習研究所では、市民大学がまちづくりにより直結するべく、全国数箇所において「創年市民大学」の名称で、大学、自治体、NPO法人全国生涯学習まちづくり協会と、共同設置を試みている。

同時に、生涯学習研究所、およびNPO法人全国生涯学習まちづくり協会では、多様な「創年運動」を展開している。たとえば、その代表的な取り組みは「創年のたまり場運動」（創年の地域活動の拠点づくり）や、「創年市民大学」設置の活動である。また、これらを総合化して、鹿児島県志布志町のように、これらの運動を全町的に、総合的に推進するために「創年と子どもの町宣言」を行っている自治体もうまれている。

### ① 創年と創年のたまり場

ところで、「創年」とは、「地域のために、自らの力を発揮し、創造的に生きる大人の新しい呼称である。創年のたまり場は「老人」「高齢者」とは呼ばず、地域の子どもたちと共に、生涯にわたり輝きつづけることを主張するものである。

創年運動の拠点として「創年のたまり場」が各地に増えている。地域の創年たちが、日常的に集まり、学習し、語らう場として身近なところに喫茶店や事業所、旅館、ホテル、薬局、パン屋、居酒屋、デパートの一角にたまり場がおいてある場合がある<sup>16)</sup>。

### ② 創年市民大学の構想

○創年市民大学の実施コースにおける、実施形態は、公民館等の事業、教育委員会の指導者セミナー、団体等が行う学級講座などのセミナーを体系的、継続的に実施するもの。実施主体は、教育委員会団体等、一切を問わない。学習主体・学習対象者は、市民であること。（高校生以上と断っている例もある）

○「創年」の持つ意味を意識し、「創年市民大学」として、学習成果をまちづくりや社会的に還元することを、事業の目標の1つとしている。

○市民大学の学習内容・プログラムは、「まちづくりに関するもの」、「地域に関する内容」、「リーダーシップに関する内容」、「自治体の事業内容に関する内容」などが一般的に含まれており、その他にも学習者の学習要求（要求課題）を反映させたものが多い。

2 全国生涯学習市町村協議会加盟自治体の市民大学のプログラム概要

番号	都道府県	所在地	事業名	事業主体	TEL	Fax	生活 一般
1	北海道	本別町	なし	教育委員会社会教育課	01562-2-5111	01562-2-5141	
2	北海道	帯広市	市民大学	生涯学習部生涯学習課	0155-24-4111	0155-21-5955	●
3	北海道	札幌市	札幌市民カレッジ	生涯学習推進課 (財)札幌市生涯学習 振興財団	011-214-4581	011-214-4606	○ ●
4	北海道	上士幌町	上士幌町タウンカレッジ	社会教育課	01564-2-3024	01564-2-3181	
5	北海道	釧路市	くしろ市民大学	生涯学習振興課	0154-31-4595	0154-22-9096	○ ●
6	北海道	士別市	士別市民大学	総務部企画課	01652-3-3121	01652-2-1934	○
7	北海道	ニセコ町	なし	教育委員会社会教育係	0136-44-2101	0136-44-3091	
8	北海道	女満別町	なし	社会教育課	01527-4-2111	01527-4-4277	
9	北海道	稚内市	旭川大学地方公開講座	教育部生涯学習課	0162-23-6161	0162-22-7913	●
10	北海道	浦河町	なし	社会教育課	01462-2-2311	01462-2-1240	○
11	北海道	美深町	なし	企画振興課	01656-2-1611	01656-2-1626	
12	北海道	千歳市	生涯学習情報提供 システム構築委託事業	人づくり推進課	0123-24-3131	0123-23-8555	
13	北海道	斜里町	なし	教育委員会生涯学習課	01522-3-3131	01522-3-5354	
14	青森県	黒石市	黒石市民大学	生涯学習課	0172-52-2111	0172-52-6191	○
15	青森県	弘前市	なし	生涯学習課	0172-35-1111	0172-35-5700	
16	青森県	階上町	学びの王国！はしかみキャンパス	社会教育課	0178-88-2698	0178-88-1803	○ ●
17	青森県	青森市	弘前大学公開講座	生涯学習課	017-734-1111	017-774-3523	
18	岩手県	前沢町	町民大学	社会教育課	0197-56-7100	0197-56-7342	○
19	岩手県	滝沢村	睦大学	社会教育課	019-684-2111	019-684-2126	○
20	岩手県	葛巻町	まなび学園	生涯学習課	0195-66-2111	0195-66-2454	○
21	岩手県	遠野市	高齢者大学	社会教育課	0198-62-4411	0198-62-3302	○
22	岩手県	軽米町	なし	生涯学習課	0195-46-2111	0195-46-2335	
23	宮城県	丸森町	丸森町民大学	生涯学習課	0224-72-3036	0224-72-3034	
24	宮城県	岩出山町	なし	社会教育課	0229-72-1211	0229-72-2223	
25	宮城県	七ヶ浜町	なし	生涯学習課	022-357-3302	022-357-2615	
26	宮城県	仙台市	マイスクールプラン21 高等教育ネットワーク仙台	生涯学習課	022-261-1111	022-223-3573	○
27	秋田県	田代町	高齢者大学	生涯学習課	0186-54-6912	0186-54-3501	○
28	秋田県	秋田市	市民大学講座	教育委員会生涯学習室	018-866-2245	018-866-2252	●
29	福島県	原町市	福島大学公開講座	生涯学習課	0244-22-4020	0244-23-3013	
30	福島県	田島町	なし	生涯学習課	0241-62-6311	0241-62-6307	
31	福島県	白沢村	なし	生涯学習課	0243-44-2350	0243-44-4284	
32	福島県	会津高田町	高田大学	社会教育課	0242-54-2368	0242-54-5642	
33	福島県	昭和村	なし	社会教育課	0241-57-2114	0241-58-1010	
34	福島県	三島町	なし	生涯学習課	0241-48-5577	0241-48-5575	
35	山形県	朝日町	なし	生涯学習課	0237-67-2118	0237-67-3375	
36	山形県	高島町	なし	まちづくり推進室	0238-52-1111	0238-52-1543	
37	山形県	天童市	なし	社会教育課	023-654-1111	023-654-3355	
38	茨城県	友部町	なし	生涯学習課	0296-77-1101	0296-78-5130	
39	茨城県	阿見町	いきいき健康大学院	社会教育課	0298-88-1111	0298-88-3601	
40	茨城県	総和町	なし	生涯学習課	0280-92-3111	0280-92-9991	
41	茨城県	関城町	なし	生涯学習課	0296-37-6111	0296-37-3456	
42	栃木県	大田原市	大田原市民大学	生涯学習課	0287-23-8718	0287-24-2528	○
43	栃木県	氏家町	町民カレッジ	生涯学習課	028-682-1611	028-682-0371	○
44	栃木県	栃木市	栃木市民大学	生涯学習課	0282-25-2908	0282-23-7059	
45	群馬県	宇都宮市	宇都宮市民大学	生涯学習課	028-632-6334	028-639-7579	
46	群馬県	新里村	なし	社会教育課	0277-74-4151	0277-74-5640	
47	群馬県	高崎市	放送大学	社会教育課	027-321-1295	027-328-4744	
48	群馬県	太田市	関東学園大学公開講座	市民生活部生涯学習課	0276-22-3442	0276-22-3488	○ ●
49	群馬県	大間々町	町民大学	社会教育課	0277-73-2111	0277-73-2122	○
50	群馬県	新治村	なし	教育委員会社会教育係	0278-64-0111	0278-64-0852	
51	群馬県	吉井町	公開講座	生涯学習課	027-387-3111	027-386-0067	○ ●
52	群馬県	松井田町	なし	社会教育課	027-393-1111	027-393-5167	
53	群馬県	桐生市	桐生市高齢者大学 高校開放講座	生涯学習課	0277-46-1111	0277-46-1109	
54	埼玉県	松伏町	松伏町文化のまちづくり 健康大学	生涯学習課	048-991-1815	048-991-7681	○
55	埼玉県	所沢	所沢市民大学講座	所沢市生涯学習センター	042-924-2954	042-924-2831	



## 3 全国生涯学習まちづくり協会の市町村調査から

番号	市町村	担当者	事業名	主体
1	大網白里町	安川	いきいき町民大学	町
2	船橋市	須藤 元夫	船橋市民大学	市教委
3	沼津市	半田 昭博	市民大学講座	教育委員会生涯学習課
4	山武町	鈴木 慎太郎	町民カレッジ	町
5	砺波市	喜田 真二	砺波市民大学「学遊塾」	砺波市
6	鏡村	高橋 昭一	かがみ村民大学	村教委
7	十王町	大間知 直仁	ふるさと大学	教育委員会
8	文京区	長田 高志	文教区民大学 文教区民大学院	文京区
9	佐川町		名教館21(めいこうかん)	教育委員会
10	川口市	土屋 賢治	川口市夏季大学	教育局社会教育課
11	仁木町	鈴木 昌裕	仁木みらい塾講座	仁木みらい塾
12	下田村	樋口 健一	高齢者大学 下田ふるさと塾	企画課
13	九度山町	野上 好弘	高齢者大学	中央公民館
14	さいたま市	森田 敏男	さいたま市民大学	さいたま市・教育委員会・市民大学運営委員会
15	萩市	池永 郁夫	萩市大学教養講座	教育委員会
16	北見市	高島 ひろみ	北見市民大学	北見文化連盟
17	津久井町	奈良 彰久	津久井町民大学グリーンカレッジつくい	津久井町民大学運営委員会
18	岡崎市	安藤 治樹	岡崎市民大学	岡崎市教育委員会
19	鳥ヶ原村		村民大学	村
20	糸田町	世羅 修次	くらしの大学講座	糸田町
21	高知市	岡崎 良桂	高知市民の大学	(財)高知市文化振興事業団
22	一宮市	武山 嘉孝	大学公開講座	教育委員会と一宮女子短期大学共催
23	津南町	滝沢 元一郎	津南いなか大学 新潟大学・いなか大学連携講座	津南町公民館 津南町公民館
24	柳津町	古川 晴代	高齢者学級 婦人学級各種有り	公民館
25	和寒町	横山	三笠山大学 婦人学級	
26	飯能市	井上 貢一	市民の大学	飯能市駿河台大学
27	和木町	山本 悦史	和木大学	教育委員会
28	東郷町	川畑 昭二	ほがらか大学	社会教育課
29	日野市	山田 剛	ひの市民大学	教育委員会
30	川崎町	小林 志郎	町民大学	教育委員会
31	芝川町	望月 昭義	町民大学講座	教育委員会
32	米沢市	伊藤 恵一	米沢鷹山大学	教育委員会・鷹山大学本部
33	御前崎町	澤島 正治	御前崎21世紀大学「生涯学習なぶら塾」	教育委員会生涯学習課
34	八幡浜市	吉浪 利彦	愛媛夏季大学	八幡浜市
35	浜田市	堀 智美	はまだ市民大学	教育委員会
36	光市	末岡 恵治	市民夏季大学	市・教育委員会・(財)光市文化振興会



内容
別紙
別紙
有名な知識人を招き講演会を実施
①砺波地区の「美縦貫・博物館めぐり」9回 ②庄川を探る9回
村民の生涯学習推進事業
町民が日常生活や人生で役に立つ教を身に付ける学習機会を提供する
各種講座の実施 学習成果の地域への還元を狙いとする
陶芸・韓国語・ちぎり絵など10種類の教室を開講
文化教育に関する講演
講演会とアトラクション
漢字講座
まちづくりの学習会 交流会等
高齢者の生活に役立つものや歴史・人権等の講座を年5回程度実施 年1回の研修旅行を実施
大学関係者・市民代表者等からなる運営委員会・カリキュラム委員会が決定するテーマ・カリキュラムに基づき全20回で開催する講座2コース
社会の変化に対応し、市民一人一人が人間性豊かな生活を送るために必要な情報を得る機会として開催しており、毎年各界の著名な片を講師として招き、5講座開催している。
芸術・文化活動や社会問題についてそれぞれの分野の作家や大学教授を講師に招いて講演会(1期7回)を開催
パソコン・英語・古文者・自然・芸術文化・生活応援
生涯学習の一環として一般市民を対象に各界の著名な講師を招く講演会
年10回の連続講座を開催しあらゆる分野の事をまなび支流する
年6回開講。定員50人。受講料2000円 その時々話題や身近な問題をテーマに開講している。
高知市民の大学運営委員会(地元大学及びマスコミ関係者で構成)と高知市教育委員会との共催事業で年2回(前期・後期)実施。1回を2科目(社会学・自然科学及び総合科学)、1科目を15講義で開設。
大学の優秀な人的、物的教育機能を活用した一般成人対象の専門的な講座
年2回程度著名な人を招いて講演や話し合いをする新潟大学と連携して6回シリーズで現代的課題について出前的な講座を行っている。
高齢者の社会的能力を高めるいきがづくり
心豊かな生きがい学習明るい家庭と地域づくり
高齢者生涯学習 生涯学習
春・秋8講座つつ駿河台大学教授等による市民向け公開講座
高齢者を対象とした文化講座健康づくり講座など
高齢者を対象とした学習講座
一般の教養講座
出前方式(希望メニューから講師を派遣)
講演会
H4から実施
町民に広く、教養・技能・工芸・趣味・健康など41の講座を開設 様々な生涯学習機会を提供、生きがいづくりとまちづくりに活かす
江戸家小猫さんの講演会
年10回開催 郷土の歴史や文化・自然・国際化・ボランティア活動
C. Wニコル、増田明美、篤信彦などの講演会

○学習方法は多様であることが、学習方法を学ぶために効果がある。そのことから講義だけでなく見学、討議、実習など多様な方法を駆使することが求められる。特に最近ではワークショップを重視しており、これが人気を博している。また受講にあたっては有料とすることも必要である。

○創年市民大学の対象・地域は、広域であることをすすめている。それは、受講者が相互に各地に創年運動を広げよう可能性が大きいからである。

### ③創年市民大学の広がり

創年市民大学は、全国各地で実践展開中である。そのうち、5つの市民大学が各々のテーマを掲げているが、モデルとして、平成17年度は、鹿児島県志布志町と名瀬市を取り上げている。同様な取り組みは、青森県尾上町、埼玉県東松山市、岐阜県可児市、滋賀県高島市、愛媛県新居浜市、鹿児島県旧隼人町、始良町、川内市、などでも行われている。

## 【事例1】まちづくり創年大学「名瀬なぜキヨラ塾」

### 1. 名瀬市と「生涯学習まちづくり事業」の共同研究と交流

平成16年度・文部科学省の「生涯学習まちづくりモデル支援事業」を、全国29箇所の1つとして、鹿児島県名瀬市と聖徳大学生涯学習研究所が委託を受けた。これが本研究に関するあらゆる分野で、名瀬市が、南日本でも先進的な取り組みとしてスタートした理由である。以下、この事業の概要を中心に、その現状と課題について述べてみる。

#### (1)事業の趣旨

この事業の研究テーマは、「自助・互助の心あふれるまちづくりをめざして～合併によるコミュニティの形成の課題解決のために～」となっている。

これは、名瀬市総合計画の「心豊かで多彩な人材と文化・交流の創造」を具現化するため、全国約40自治体をモデルに生涯学習まちづくりを総合的に研究、支援している聖徳大学の機能を活用して推進するというものである<sup>17)</sup>。

#### (2)事業計画

##### ①基本理念

「離島としてのさまざまな課題や条件が横たわっています。また、市町村合併を控え、離島とコミュニティ形成の大きな課題であります。そのために、『一人一学習、一スポーツ、一ボランティア』のスローガンのもと、生涯学習まちづくりに本格的に取り組めます<sup>18)</sup>」

##### ②事業のポイント

このモデル事業のポイントは、次の2点にまとめられ

る。

ア. 大学等の高等教育機関と、組織的連携の方法を探り、駆使することである。具体的には、「大学の機能の活用」「まちづくりに関する共同研究」「大島地区生涯学習推進大会の共催」「学生の社会活動の場の拡充」の項目の充実を図ろうとするものである。

イ. もうひとつは、住民の事業への参画のあり方を探るということである。この研究成果を高めるために、「生涯学習」「まちづくり」「まちづくりボランティア」などのキーワードについて、徹底した研修を実施する必要があった。

### ③住民の事業への参画のあり方

「住民の事業への参画について」次の4点をあげている。

ア. 日常学習への参加

イ. 実行委員としての参加

ウ. 大島地区生涯学習推進大会への参加

エ. 地域活動への積極的取り組み

### (3)具体的な事業の内容

具体的に、1年間で実施した内容は次のとおりである。

①行政職員及び社会教育関係者、まちづくり関係委員の研修

②まちづくりボランティアの養成

「名瀬市まちづくり創年大学」の1部に、地域アニメーター資格取得科目が含まれており、この部分については集中講義の形式で実施している。

③名瀬市まちづくり研究会(仮称)の自主的な活動

「名瀬市まちづくり創年大学」の1部として、グループ活動に入り、市民主体でその実質の活動に取り組むものである。

④まちづくり推進計画の具体的な立案

⑤名瀬市のまちづくり推進計画の実行

⑥本事業のまとめ

「大島地区生涯学習推進大会」の共催

これらの一連の事業を、メンバーを変えて繰り返したものが、2年次の活動になっている。ただし、学習内容については、前年度の積み上げになるものもあり、内容も、より高度化されている。

2年目の学習の集大成として実施されたものが、平成17年11月20日に実施された「南日本生涯学習まちづくり研究大会」である。

(4)「名瀬なぜキョラ塾」のプログラムと流れ

上記、②「まちづくりボランティアの養成」にあたるものが、「名瀬市まちづくり創年大学」であり、そのうち資格にかかる部分が、「生涯学習とまちを楽しむセミナー」となっている。

また、この2つのプログラムは、実際は「生涯学習まちづくりモデル支援事業」に位置付けてスタートしたものである。

1. 「生涯学習とまちを楽しむセミナー」

- ①名瀬市のまちづくり
- ②まちづくりと子どもが主役のまちづくり
- ③ワークショップ「子どもが主役のまちづくり」
- ④作成した計画案の発表
- ⑤計画の視点とまちづくり
- ⑥参加者の研究交流

2. 「名瀬市まちづくり創年大学」

- ⑦奄美のまち並みを探検する(ワークショップ)
- ⑧奄美の地域学(島内バス旅行)
- ⑨第10回大島地区生涯学習推進大会への参加
- ⑩新しいまちへの旅立ち

3. グループ(分科会)の自主的な活動

○上記の表、プログラム全体が「名瀬なぜキョラ塾」であり、1~3までの各活動が組み込まれた活動である。

○「1」の部分は、「生涯学習とまちを楽しむセミナー」となり、地域アニメーター養成講座の必要な科目を含んでいる<sup>19)</sup>。

○「2」の部分は、全て見学を含む実習であり、時間数もグループ活動準備もあって、実際のプログラムに表われない多くの時間をかけたものである。

○「3」の部分は、グループの計画によって行われ、各グループとも、およそ5日間(20~30時間程度)の活動日を要している。

(5)学習成果をボランティアに生かす

事業は計画にしたがって順調に展開された。グループ活動も自主的に会を重ね、現場を歩き回り、素晴らしい作品をつくりあげた。主催者の教育委員会が、この事業の終了時に学習者を対象に事業後のアンケートを実施している。以下はアンケートの一部である。

①ボランティアへの関心(%)

ある 94.3      ない 0      どちらでもない 5.7

②自分の身につけている資格や技能をボランティアにいかす(%)

ぜひ生かしたい 81.4  
生かしたくない 2.9  
どちらでもない 12.9

④活動したいボランティアの分野(%)

福祉関係 20.2      まちづくり 27.7      環境 17.0  
教育関係 17.0      生涯学習関係 14.9  
その他 3.2(健康, レクリエーション, 子ども会)

⑤ボランティア養成講座への参加希望(%)

受講したい 81.4      受講したくない 0.0  
どちらでもない 15.7

⑥今後、こういう講演会(まちづくりボランティア)への参加希望は98.9<sup>20)</sup>%

地域アニメーター養成講座の終了後に実施した簡単なアンケート調査ではあるが、参加者がかなりの満足度を持っていることがわかる。

参加者が、学習成果を生かしたいという人が、8割を超しているし、広義では、地域に活動したいという人が大半を占めている。いわばまちづくりへの参加を意味していると言えるものである。

(6)まちづくり創年大学「名瀬なぜキョラ塾」の特色

まちづくり創年大学「名瀬なぜキョラ塾」は、市民大学講座として2年間にわたり、まちづくりの視点で実践されているものである。この事業についてその概要を、「創年市民大学」「市民の人材養成事業・なぜキョラ塾」「大学との連携」「発表会の実施」の4つの視点から、概要をまとめ、考察してみることにする。

①創年市民大学

創年市民大学は、前述のように市民大学として「創年」の理念を強く主張する講座である。また、これは市民大学として、単に、知識・技術を身につけ、自らの生きがいに役だてるだけでなく、学習成果を地域に生かすことも、学習の一部として位置付けた点に大きな特色を持つものである。名瀬市の場合は、「まちづくり創年大学」となっていることから、「まちづくり」を学び、めざすところは当然のことながら、成果をまちづくりに生かすということは明白である。

②名瀬市の「まちづくり創年大学・なぜキョラ塾」の特色

一般の市民大学に対して、「まちづくり創年大学」は次のような項目について、特色を持っている。特に学習成果を、地域に生かすことを主張するものである。その結果、

次のような特徴が見られた。

ア. 学習者は、意識の高いまちづくりに対する熱意を持った人が多かったこと。

イ. 学習は自由に、しかも専門的に行われ、高度な研修成果をあげている。

基礎的な学習とワークショップを加味する動的な学習は、交流が活発になり、楽しく学び、その結果、参加者の意識を高めているものである。そのため、それぞれのグループの自主的な活動が活発化している。

ウ. 学習成果を生かす。

市内の各種のイベント・事業と、「南日本生涯学習まちづくり研究会」等の運営について、多くの受講者が参画する活動がつついている。

エ. NPO法人全国生涯学習まちづくり協会が、主催する事業として、創年市民大学の学習内容は、まちづくり；資格取得(地域アニメーター)などを、主な学習内容としている。

オ. 聖徳大学の研究プロジェクトと連携する事業である。

聖徳大学生涯学習研究所では、平成15年から、文部科学省の私立大学高度化推進事業の「学術フロンティア推進事業」の採択を受け、研究テーマ「生涯学習の観点に立った少子高齢社会の活性化に関する総合的研究」について、自治体と共同研究を実施しているものである。その研究プロジェクトの第4部門、『大学と地域の共同による生涯学習システムの構築』の中に、「市民大学」「まちづくり」「仕事づくり」「創年活動」のキーワードによる研究が位置付けられている。これらを総合化したものが「まちづくり創年市民大学」である。

カ. 平成16年度・文部科学省生涯学習まちづくりモデル支援事業を、発展させた事業である。この補助事業そのものは、平成16年度で国の事業そのものが終了しているが、「まちづくり創年大学・名瀬なぜキョラ塾」は、市単独で発展的に継続しているものである。

### ③名瀬なぜキョラ塾の活動成果の市民への波及

ア. 地域アニメーター養成講座が組み込まれた事業であること

イ. ワークショップの成果が、市内の各所で研修スタイルとして活用されている

ウ. 4つの分科会グループで独自の研究、成果を発表し、研究成果が活用されているうえ、グループの活動が継続している。

エ. 科会の自由学習の成果は、公民館等で展示され市民に公表された。作成された4つのマップ「川」「紬」「絵本」

「児童公園」は、その緻密な作品の出来栄から、対外的にも高い評価を受けている。特に、全国の展示会として、聖徳大学生涯学習社会貢献センターで開催された、青少年育成学会などでも紹介された。

### (7)南日本生涯学習まちづくり研究大会の計画と実現

名瀬市まちづくり創年大学「名瀬なぜキョラ塾」の受講生の学習成果は、平成17年11月27日(日)名瀬市文化センターで開催された「南日本生涯学習まちづくり研究大会」で最大に発揮された。これは、第12回生涯学習フェアとの2枚看板による総合事業である。「まなびピア名瀬2005」と名づけられたこの事業は、平成17年11月1日から1ヶ月間にわたって、名瀬市内の教育施設を活用したもので、9つのイベントが組み込まれている。そのうち「キョラ一万人広場フェスタ」と「響け！奄美しま唄・踊り」それに「南日本生涯学習まちづくり研究大会」の3事業が「南日本生涯学習まちづくり研究大会」のメイン事業として実施された。

#### ①研究大会のプログラム

研究大会は、5つの分科会で、実践事例を元に、約400名が参加して行われた。そのうち4つの分科会では、「名瀬なぜキョラ塾」の発表を中心に行われた。シンポジウムでも「名瀬なぜキョラ塾」の代表者が発表した<sup>21)</sup>。

#### ②「生涯学習市民フェア」への市民参画の成果

この大会の成果としては、主催者のアンケートなどの結果、以下のような点が観察された。

- ①何名かの発表者は、「市民大学」の学習成果として発表している。(再掲)
- ②全事業に市民大学への参加者が、大会運営委員として運営に参加している。
- ③生涯学習市民フェアは、総参加10,000人参加の事業として定着している。
- ④大会の準備糧において、行政関係者の意識改革が図られている。
- ⑤市内の各種団体が、生涯学習フェアをめざして総出演する体制に成長している。
- ⑥市民大学の修了者たちが市民に対して、誇りをもって対峙している様子がうかがわれる。

### 【事例2】志布志創年市民大学

鹿児島県志布志町は、最近の数年で急速に生涯学習施策に注目を浴びているまちである。

特に、創年市民大学の創設で発展するまちで、聖徳大学における研究とも連携を取る自治体として積極的に交流を

分科会運営担当者一覧

分科会名	1 潤いのあるまちづくり部会	2 子どもが主役のまちづくり部会	3 いきいき健やかまちづくり部会	4 創年と子どもが生きるまちづくり部会	5 市民が輝くまちづくり部会
テーマ	生活に潤いを持ち住み続けたいと願うふるさとづくりはどうあればよいか。	ふるさとに誇りと愛着をもつ子どもたちを育むふるさとづくりはどうあればよいか。	一人ひとりが心身ともに健やかで、いきいきと暮らすふるさとづくりはどうあればよいか。	創年と子どもの交流を通してお互いがいきいきと生活するふるさとづくりはどうあればよいか。	市民一人ひとりがいきいきと活動し、交流が活発に行われるふるさとづくりはどうあればよいか。
会場	奄美文化センター音楽専用室	奄美文化センターホール	金久地区分館研修室	奄美文化センター第1リハーサル室	奄美文化センター第2会議室
司会者	大島教育事務局指導課社会教育主事 河原橋 和博	名瀬市立小宿中学校校長 中水 勝久	名瀬保健所保健指導課長 新塘 久美子	奄美群島広域事務組合事務局長 花井 恒三	とびっきりまちづくり塾代表 重信 千代乃
事例発表者	創年のたまり場「花とおしゃべり」代表 篠原 初子	名瀬市立小宿中学校朝野 桜子, 岩切 拓海 大津 真生, 平井 好美 安田 俊哉	フレッシュ体操竹山教室 竹山 菊乃	名瀬なぜキョラ塾4班 英 芳徳	名瀬なぜキョラ塾2班 内山 初美
	名瀬なぜキョラ塾1班 才田 一男 鍵和田 敏子 半田 ゆかり	名瀬なぜキョラ塾3班 西平 功 安田 祐太郎, 城間 ケイ 光 沙耶香, 下久保将人 松田 克将, 榊 史音 越間 悠斗	佐仁三十日会 松元 ミキ		
		志布志町生涯学習まちづくり研究会 小窪 久美子	薬膳茶房 オーガニックごうだ代表 郷田 美紀子	あしたば村 向井 扶美	始良町生涯学習まちづくり研究会 長谷川 きよみ
			文化・スポーツ振興課長 福山 敏裕		
責任者	環境対策課長 山田 勝昭	学校教育課長 杉本 匡隆	文化・スポーツ振興課長 福山 敏裕	福祉政策課ゆうあい係長 関 誠之	教育委員会総務課長 安田 義文
記録者	環境対策課環境政策室長 田丸 友三郎	名瀬市立小宿小学校教頭 坂元 幸道	学校教育課指導主事 中山 恭平	名瀬市立奄美小学校教頭 白澤 良郎	名瀬市立伊津部小学校教頭 佐東 忍

続けている。中でも全国に先駆けて、「創年と子どものまち宣言」を行い、様々な取り組みで知られる。志布志町の取り組みについては、名瀬市大会の発表資料において発表された志布志創年市民大学の受講者の文で照会する<sup>22)</sup>。

(1) 志布志創年市民大学の特色

大学との連携で実施する市民大学として、まちづくりをめざす講座で、また資格取得も可能な講座でもある。これまでも九州女子大学の例があるが、現在では、全国的にも例は少ないのではないと思われる。その特色を端的に述べると次のような点が上げられる。

- ①市民が企画と運営に積極的に関わっていること
- ②内容は、まちづくりを研究するという講座として、地域のまちづくり研究会と連携している。したがって、受講者を中心に、町のシンクタンク的な機能を發揮していること
- ③創年市民大学のプログラムには、地域アニメーター養成講座の課程も含まれるなど、市民にとっては刺激になる内容となっていること
- ④受講者は、町民に限らず、科目によっては、他の自治

体からも参加が見られること

なお、志布志創年市民大学の概要については、開設要綱を以下に、参考に示す<sup>23)</sup>。

(2) 志布志創年市民大学開設要綱

①開設趣旨

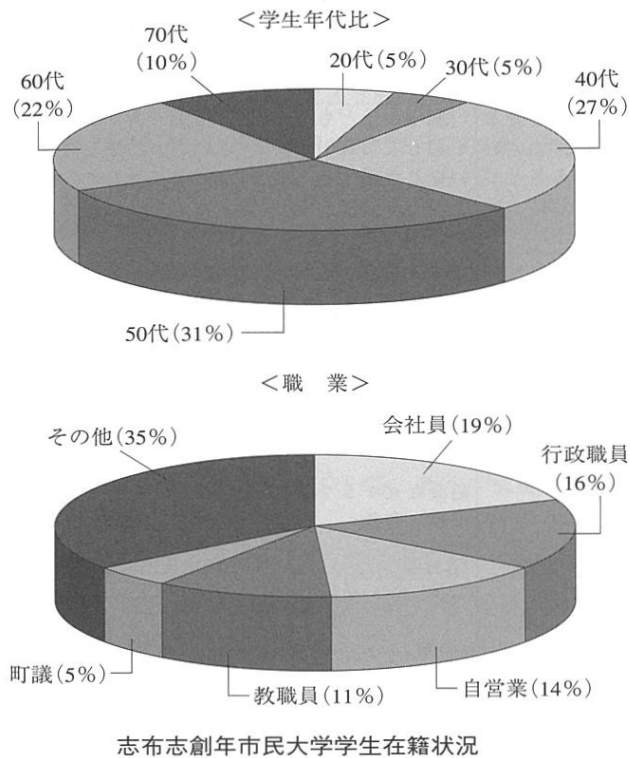
志布志創年市民大学は、少子高齢化社会の活性化と市民を主役にしたまちづくりの推進を図るために、次に掲げる2つの「志(こころざし)」を持ち、「人財(布)」を育む市民大学として開設するものである。

○【志その1】「創年と子どものまちづくり」

少子高齢化社会の活性化を図るために、創年(新たな人生に挑戦する生涯現役をめざす人の呼称)が地域社会の中で子どもと様々な活動を展開することにより、創年には生きがい活動を創出し、子どもには地域の先人たちに学ぶ健全な成長を促すために、まちづくりの主役として活躍する市民づくりを行う。

○【志その2】「地域学から始まるまちづくり」

自身が住む地域を調べ、その魅力と可能性を再発見し、



市民による明るく住みよい生涯学習まちづくりを实践研究する人材(布)づくりを行う。

②対象者

大学開校の趣旨に賛同する高校生以上の市民(町外可)の60名とする

③学習課程

ア. 学習課程は2年とし、1年目を前期(17回)2年目を後期(16回)年、大学院については学生の希望により検討する。

イ. 本講座は、1講座1単位とし、指導者養成講座・特別講座は2単位取得とし、前後期あわせて28単位取得で卒業とする。

④学習成果の評価と活用

ア. 大学でのワークショップ、事例研究等は本町のまちづくり計画への提言とし、評価活用するものとする。

イ. 大学卒業者には、「まちづくり仕掛け人」として認定し、希望者は人材バンクに登録し、行政機関の委員としての登用や生涯学習のスペシャリストとしての場を提供する。

⑤資格の授与

大学卒業者には次の資格が授与されるものとする。  
 ア. 「まちづくり仕掛け人」として認定  
 イ. 特定非営利活動法人・全国生涯学習まちづくり協会「特修地域アニメーター」(中級)が申請により取得可<sup>24)</sup>

(3)活動の実際

①学生の受講実態(在籍状況)

受講生は、内容によって、町外から多くの参加者がみられる。毎回の正規の固定参加者は、男女同数となっている。年代、職業別の参加比は表の通りである。

②前期カリキュラムの実績 表3

全17回のカリキュラムは、「まちづくり懇談会」の4回シリーズの他、「地域アニメーター養成講座」や「修学旅行」などが含まれている。また「第3回 全国子どもをほめよう研究大会」という大規模な行事があり、約800人の参加者があった。指導者も、多才な人材が、県内外からも多数参加している点では、県内の他の市民講座等の規模を圧倒している。

5. 創年市民大学の、まちづくりに及ぼす効果

(1)創年市民大学の事業の特徴と分析

「創年」とは、地域のために自らの力を発揮し、創造的に生きる大人(中高年)を呼ぶ。

これまで多くの市民大学は文化教養、健康などの学習が多かったこともあって、市民大学の学習者は、その学習成果を活かそうとすることは少なかったといえる。もちろん最初から、市民大学の受講動機は、知的欲求を満たすことが最大の動機であり(一部は、再就職などの手段として学ぶこともあるが)、もともと地域に生かすためなどという考えはないものである。

しかし、創年市民大学の「創年」の意味の中に、自己のこれまで蓄えた人生の経験(学習成果)を生かすという前提があり、当然のことながら成果を生かすことが、いわば条件になっているのである

(2)創年市民大学の、効果をあげているとおもわれる点

志布志創年市民大学が効果をあげたのはなにか。受講生のそれぞれが学習を楽しんだこと、学習成果を生かしたいと考えていることなど、発表会、記録集にみると、大きな成果をあげていることがわかる。具体的な内容は主に、次のようなものである。

①地域への愛着

- ア. マップ作りなどを通して、町を見る眼が変わった
- イ. 地域の特徴探し、人的資源の検討などによって、地域に対する愛着が強まった
- ウ. 子どもたちと共同で活動したグループでは、子どもに対する見方が変わった。
- エ. 地域の歴史や文化に関する理解が深まった

②地域連帯感の醸成

表3 前期カリキュラム実績報告

	期日	テーマ	講師	出席者	聴講生
第1回	6月15日	創年とは生涯現役 ～意義ある人生、これからの本番～	聖徳大学教授 福留 強	82名	
第2回	6月29日	志布志の元気をつくる地元学	水俣市教育委員会 生涯教育課長 吉本 哲郎	69名	
第3回	7月13日	自然と食が子どもの心を変える ～「夜逃げのまち」から「観光のまち」へ～	宮崎県綾町 郷田美紀子	66名	2名
第4回	7月24日	第1回まちづくり懇話会 私が目指すまちづくり 学生懇親バーベキュー		50名	8名
第5回	7月27日	地域が育てる！わんぱくガキ大将	前有明町教育委員会 教育長 大迫 享	54名	
第6回	8月3日	自然学校に創年と子どもの夢がいっぱい ～かわなべ森の学校～	かわなべ森の学校 代表 北島 淳朗	49名	
第7回	8月18日	学校はまちづくりの中心 ～創年が学校で活躍する方法を伝授～	垂水市教育委員会 教育長 川井田 稔	52名	
第8回	8月24日	第2回まちづくり懇話会 夢が膨らむまちづくり ～志布志町の未来と夢を語ろう～	志布志町長 慶田 泰輔	57名	2名
第9回	9月11日	～創年と子どもの交流のための指導者養成講座～ 創年と子どもが主役のまちづくり (地域アニメーター養成講座)	福留 強・吉村 宏・ 澤 環 他	41名	11名
第10回	9月12日	平成創年と子どものふるさとと検地 ～その時歴史は動いた！ 志布志の山城を楽しもう～	麓 宏吉 志布志まち研	32名	11名
第11回	9月18日～ 19日	第1回志布志創年市民大学修学旅行 まちづくり温泉ミステリーバスツアー	熊本県 水俣市	24名	
第12回	9月28日	もうすぐ子ほめ全国大会 ～子ほめの先進地に学ぼう～	第1回前津江村大会 実行委員会 吉田 恒光	30名	
第13回	10月16日	高橋忠史1000日連続コンサートin 志布志 ～創年市民大学の校歌今夜発表！～	シンガーソング ライター 高橋 忠史	37名	9名
第14回	10月26日	子どもの願いと大人の願い ～志布志の子ども恵まれていることは～	聖徳大学教授 西村美東士	37名	
第15回	11月9日	これからの市民大学とまちづくり ～私が地域で実践できること～	鹿児島大学助教授 小林 平造	32名	
第16回	11月20日	第3回全国子どもをほめよう研究大会 ～子ほめフォーラムinしほし～	鹿児島大学教授 原口 泉	62名	
第17回	11月25日	第3回まちづくり懇話会 ～落語で語る「地域が生んだ人財」～	大分県宇目町観光大使 矢野 大和	55名	

オ、学習への参加者同士の親睦が深まり、地域に人的なネットワークが広がり、今後の団体・リーダー同士の連携の気運が広がっている

③まちづくり手法について知識技術の体得

カ、地域づくりの技法に関する研究が進んだ

キ、大学との協力事業であり、全国的な生涯学習、まちづくりの動向等を知ることが出来た

ク、高等教育機関を身近に感じ、これからも自己学習を積極的に継続したい

④社会参加の積極的な態度の醸成

- ケ. 実践する行動力が培われた
- コ. 地域や自己の成長について学ぶ喜びを感じるとともに、成果を生かしたいと思う
- サ. 今後地域子どもたちに何を伝えるか真剣に考えるようになった

これらの内容から、高齢者が積極的に学習することになったこと、地域連携の気運が盛り上がっていることなど、コミュニティの形成に効果をあげていることがわかる<sup>25)</sup>。

## 6. 市民大学とまちづくりに関する研究と方向

### (1) 大学と地域の連携による市民大学のあり方と効果

市民大学の効果として、筆者がかつて九州女子大学において北九州市民と九州各県で延べ2,770の参加を得た4年間の記録をまとめたことがあった。現在の活動も、大学、行政、学習者へのメリットは、当時の印象とほぼ同じであるが2つの市民大学(名瀬市「まちづくり創年大学・名瀬なゼキョウ塾」と志布志創年市民大学)の実施の結果、学習者、大学、行政にはそれぞれについて、以下のようなメリットが指摘できるようである<sup>26)</sup>。

#### ① 大学へのメリット

大学には高等教育機関としては、その知見を社会的に還元するという使命と意義がある。さらに大学には、研究成果が活用されることで、地域に貢献することになる。そのことによって、研究体制をより高めることにつながるなどの効果がある。また、地域に貢献し活躍した教員にとっては誇りと意欲が高まることになり、さらに高度な研究の推進が期待される。また、地域に関する関心が高まる一方、地域における大学の存在意義が高まることもあげられる。

#### ② 行政にメリット

大学と連携することによって、社会教育の限界を克服することができる。より高度な学習機会を提供できる地域の生涯学習機関として、高等教育機関を、地域の資源として活用できることは、行政にとっても、また政策手法としても、効果のあるものである。

大学と連携する市民大学事業は、それ自体非常に少なく、まちづくりの視点としても、ユニークな、いわば目玉事業となるものである。

行政は一般にNPO等との連携が強化されることによって、市民活動がさらに広がることが知られている。市民大学の実践により、行政の各部門で、事業を通じて、NPO団体等と連携の手がかりを得ることができた。

#### ③ 学習者へのメリット

公民館等の通常の学習機会の他に、市民大学は、高度性、

独自性、などに新しい魅力に対応できるものである。高齢化社会を生きがいを持って、いかに生きるかという課題に直面している中高年者には、新たな課題に挑戦することはそれなりに大きな希望である。

市民にとっては、より高度で体系的な学習が期待できる学習機関として大学は、格好の場所である。身近かなりカレント教育の機会としてこれを活用することが効果的である。

### (2) 今後の市民大学の方向

#### ① 学習プログラムを通して市民が参画できること

市民大学は、今後、大学の地域への拡張を考えれば、ますます広がるものと思われる。さらに、市民大学は、市民が主役で企画・運営するという生涯学習政策とも一致する動向であり、市民の学習ニーズに対応するものである。それだけに、各種の市民大学の同水準ものを充実させることが必要である。市民大学の企画過程から市民が関わる必要がある。この市民大学に同様に期待を込めて、田中雅文氏は、次のように表現している<sup>27)</sup>。

「市民大学は、社会運営の主体としての市民が、自己教育を通して、自らの独立性と社会への批判性、さらには社会変革への視野をも培いようとする場として発展することが好ましい。そのためには、市民・学習者自身が学習プログラムの作成に参加できる仕組みが必要である。このような市民大学の学習プログラムをとおし、学習活動と市民活動をリンクさせて意欲的な政治参加・社会参加の活動に取り組む市民が、数多く育つことを期待したい。」

これまで力説されてきたことであるが、市民大学に限らず、こうした講座は、企画の段階から、学習者を参画させることが不可欠である。

#### ② 市民大学の実施には「創年市民大学の発想」が必要である

これまで市民大学の、まちづくりに関する学習効果を期待する「創年市民大学」の例から、その成果を、具体的に検討した。そして、今後の市民大学のプログラムに「創年」の視点を加えることが、効果的であることが示された。いうまでもなく、これからの市民大学は、学習者が、その成果を活用できるような具体的なテーマを設定することが望まれるのである。

#### ③ まちづくりにかかるプログラムを、改善することが必要である

「単に教養中心の市民大学ならば、受益者負担が必要であろう。今後は、学習成果を地域に還元すべきで、これからは、公的な予算による事業は軽減されるべきでしょう。」



と文部科学省の政策担当者が、あるシンポジウムで発言していたが、まったく同感である。

これからの学習は、行政依存ではなく、市民が自習的に学習計画を立案し、実現させるという自主性を身につけるように工夫することが必要である。

④学習者は広範囲から、しかも多様な職種の人々が集まることが望まれること

地域活動には、地域の多くの人々のアイデアが反映され、それぞれが自分の力で実践出来る分野で活動することが望まれる。そのためには、多彩な人材が集まり活動の輪を広げることが大切である。平成の合併が進み、多くの地区で、市民がまとまっていない状況が見られる。そこで、市民大学等は広域で実施し広範囲から学習者が集まることが、その後の事業の波及効果を考慮したとき効果的である。そこで、主催者が教育委員会にしても、他の多くの委員会をはじめ、各種団体と連携することなどが不可欠である。

⑤学習成果は、明確に記録として残すように工夫されること

学習は、その成果を活きるようにするためには、科学的に綿密に計画し実施することが基本である。しかし、生活者として成人は、様々な日常の営みの中で日々変化しているものである。したがって必ずしも学習がシナリオどおり進むわけではない。そこで、あるがままの活動が学習である。それだけにあらゆる活動記録は、学習者にとっても貴重な学習である。そこで、記録を含めてすべてが市民大学という考え方が必要である。

### (3) 今後の研究課題

#### ①聖徳大学の研究計画の概要と予測

聖徳大学生涯学習研究所の研究計画が、平成15年度文部科学省の私立大学高度化推進事業の学術フロンティア推進事業が採択された。その研究テーマ「生涯学習の観点にたった少子高齢社会の活性化に関する総合的な研究」においては、5つの専門部を設定している。

そのうち「大学と地域の協働による生涯学習システムの構築」の第4部では、市民大学等による学習内容の研究などを、研究することになっている。その他、高齢者の生きがい対策と人材活性化に関する研究などと連動させる研究成果を、活用させる構想である。

これらの一連の活動から「創年」運動が浮かび上がってくる。その創年運動を展開させる拠点で、学習の場として「市民大学」を「創年市民大学」という構想に展開させたのである。したがって、これらの計画は、今後の取り組みとして、次のような手順で研究を進めることにしている。

#### □第1段階 全国自治体のネットワーク形成

##### ア. 全国の自治体を対象に調査の実施

市民大学の有無、今後の開設計画、プログラムの内容、及び運営計画、学習の評価などの実態を調査する。

##### イ. 創年市民大学の計画についての課題

自治体における創年市民大学の実施の可能性について、当面する課題とともに検討する。

#### □第2段階 創年市民大学の構想

「市民大学」の質を向上させるとともに、学習成果の活用を促進するため魅力ある市民大学としてのプログラムを工夫することが必要である。市民大学で、市民が主役のまちづくりの参画方法を取り入れている「人財図書館市民カレッジ」(北本市)大田原市民大学講座「生涯学習まちづくり入門」プログラム等の例がある<sup>28)</sup>。

#### □第3段階 モデル「創年市民大学」と協働研究の実施

「創年市民大学」で、特定非営利活動団体が行う「認定資格」の取得を可能にするためのプログラムの開発を行う。すでに「NPO全国生涯学習まちづくり協会」との連携で「地域アニメーター」の資格を取得する例は一般化している。

#### □第4段階 共通のプログラム等の開発

##### ア. 全国の市民大学とのネットワークによる共同研究

すでに実施中であるが、さらに多くの市民大学のネットワークを形成し、プログラムの開発を共同研究する。

##### イ. 大学の通信教育との単位取得の可能性の拡大

大学の機能拡大は、一般的な傾向であるが、市民大学と例えば通信教育との連携化乗り入れの可能性を拡大するものである。

#### □第5段階 正規の大学の単位取得を取り入れた評価システム

市民大学における「大学」とは、もちろん学校教育法に基づく、正規の大学ではないが、単なる魅力的なネーミングにとどめるわけではない。これまで述べてきた質の高い市民教育を提供する事業に与えられる称号であるものであろう。それだけにすぐれた評価についても検討する必要がある。

具体的には、大学の正規の単位の取得の可能なシステムの研究を行うものである。

#### ②市民大学関係者が調査、研究、協議できる場の拡充を

「市民大学」の受講者には、自ら学んだ成果を積極的に生かし、多くの人々の幸せや地域社会の活性化をめざした

「生涯学習によるまちづくり」のオピニオンリーダーとして活躍することが期待されている。そのためには、企画・運営・評価などの経営全般に受講者が参画することが必要である。

このような生涯学習オピニオンリーダーが学習の成果を生かしあいながら共生することは、全ての人が人生を生きがいをもって生きる生涯学習社会を実現するための原動力となり、地域(まち)を変革する巨大なエネルギーとなる可能性を秘めている。そのため「市民大学」関係者が、調査・研究・協議のできる場を拡充し、その成果を共有することが必要であろう。

#### 参考資料

- 1) 「社会をつくる市民大学～生涯学習の新たなフロンティア」田中雅文編著 玉川大学出版社
- 2) 上に同じ
- 3) 平成5年度「社会教育調査」(文部省)によると、1975年以後、77%が事業展開している。
- 4) 東海大学文明研究所「紀要」山本慶裕 1987年 p. 10 「生涯学習機関としてのカルチャーセンター」
- 5) 「市民大学事業等に関する調査」1988年 広島大学教育学部社教育研究室
- 6) 「創年学～中高年の新しい生きかたの創造～」聖徳大学生涯学習研究所  
1章「創年と創年活動」 pp. 5～34 福留強
- 7) 全国生涯学習まちづくり協会実施「生涯学習推進のための地域政策調査研究」  
「市民大学とまちづくりに関する調査研究」平成15年3月
- 8) 「グループ活動と青少年」日常出版 福留強
- 9) 「生涯学習まちづくりの方法」日常出版 福留強
- 10) 「地域における生涯学習の取り組み」平成15年 文部科学省
- 11) 「市民大学とまちづくりに関する調査研究報告書」の「全国生涯学習市町村協議会加盟自治体の市民大学のプログラム概要の一部をまとめたもの。
- 12) 上に同じ
- 13) 上に同じ
- 14) 参考資料表3 自治体調査の一部を表にまとめたその形式の一部である。
- 15) 報告書 第2章 市民大学運営の現状と課題
- 16) 創年のたまり場パンフレット 全国生涯学習まちづくり協会
- 17) 名瀬市行政資料
- 18) 生涯学習まちづくりモデル支援事業実施計画書(平田隆義市長) 文部科学省政策局長あて
- 19) 地域アニメーターはすべての科目を修了し、必要な申請を行えば、全国書まちづくり協会の、認定委員会(海部俊樹認定委員長)より「地域アニメーター」の認定資格があたえられる。
- 20) 生涯学習ボランティアアンケート調査 平成16年7月1日
- 21) 南日本生涯学習まちづくり研究大会資料 17年11月27日 名瀬市
- 22) 上に同じ
- 23) 志布志創年市民大学前期報告書 志布志創年市民大学 編集
- 24) 志布志創年市民大学パンフレット
- 25) 20に同じ
- 26) 九州女子大学生涯学習研究センター紀要 第3号(1998年) 「大学開放講座の複数枚看板方式の意義に関する考察」～島原市民大学における「5枚看板方式の実践から～ 拙著p. 77 福留強
- 27) 2に同じ
- 28) 全国生涯学習市町村協議会調査研究「市民が主役の生涯学習まちづくり」における市民参画の実態と効果的な形態に関する研究報告書」(文部科学省生涯学習政策局・全国生涯学習施策に関する調査研究委託事業)平成16年度)